

匝瑳市総合計画後期基本計画策定に係る
団体懇談会

協議報告書

平成27年9月

匝 瑳 市

目 次

団体懇談会次第	1
団体懇談会協議報告書 第1分科会（健康・福祉・医療）	2
団体懇談会協議報告書 第2分科会（産業・経済）	7
団体懇談会協議報告書 第3分科会（生活環境・都市建設）	16
団体懇談会協議報告書 第4分科会（教育・交流）	20

団 体 懇 談 会 次 第

日 時 平成 2 7 年 8 月 8 日 (土)

午後 1 時 3 0 分～午後 4 時 0 0 分

(全体会) 午後 1 時 3 0 分～午後 1 時 5 0 分

(分科会) 午後 2 時 0 0 分～午後 4 時 0 0 分

会 場

(全体会) 市民ふれあいセンター会議室(2階)

(分科会) 第 1 分科会 第 1 会議室(1階)

第 2 分科会 視聴覚室(2階)

第 3 分科会 談話室(1階)

第 4 分科会 第 3 会議室 (2階)

■全体会

- 1 開 会
- 2 市長あいさつ
- 3 市政概要説明
- 4 分科会について
- 5 閉 会

■分科会

- 1 開 会
- 2 自己紹介
- 3 意見交換
- 4 閉 会

団体懇談会協議報告書

(敬称略)

名 称	第1分科会 (健康・福祉・医療)	会場	ふれあいセンター第1会議室
協議日時	平成27年8月8日 (土) 14:05 ~ 15:58		
出席者	<p>那須章典 (匝瑳市社会福祉協議会会長)、加瀬功一 (匝瑳市ボランティア連絡協議会会長)、伊藤稔 (匝瑳市民生委員児童委員協議会会長)、飯島守 (匝瑳人権擁護委員協議会第三部会匝瑳市支部委員)、福島俊之 (匝瑳医師会理事)、江波戸寛 (匝瑳市歯科医師会会長)、勝山慶一 (匝瑳薬剤師会会長)、及川美智子 (匝瑳市母子寡婦福祉会会長)、日色昭浩 (匝瑳市身体障害者福祉会会長)、大海原祥榮 (匝瑳市シニアクラブ連合会会長)、林幸子 (NPO法人WITH理事長)、山崎優子 (匝瑳市手をつなぐ育成会理事長)</p> <p style="text-align: right;">計12名</p>		
市職員	<p>太田安規市長、太田和利企画課長 (司会)、塚本貢市市民課長、山下慎一健康管理課長、平山弘福祉課長、大木進一高齢者支援課長、日下潔市民病院事務局長、久古義雄市民ふれあいセンター所長、増形武志企画課主査 (書記)</p> <p style="text-align: right;">計9名</p>		
協議概要	<p>1 自己紹介 司会者から団体代表者、市職員の順で自己紹介を行った。 2 意見交換</p> <p>○健康・体力づくりの推進について</p> <p>社会福祉協議会：飯高地区社協では、健康寿命を延ばすための取組みとして、匝瑳市の「おっらーほーのラジオ体操」のCDを昨年5月に市社協と協力して制作した。また、8月にユーチューブに投稿した。飯高地区では各戸へ配布し、奉仕作業を始める前に体操をするようにしている。また、CDが欲しい方は、市社協を通じて無料で配布している。</p> <p>市民意識調査の設問の間5の中で、「市の取組みで何が重要と考えますか。」という質問に「活動拠点を整備する」の回答が多い結果となっている。また、先日テレビ放送で、山梨県甲斐市が制作した「甲州弁のラジオ体操」が放映されていたが、お金のかからない健康増進ということで、全市的に取り組んでみてはどうか。</p> <p>企画課長：飯高地区社協を中心にすばらしい活動をしている。他のみなさまはどうか。</p> <p>歯科医師会：健康に対する教育・価値観が重要になってくる。短的ではなく長期的に教育していくことが大切である。この分科会の委員に教育委員会関係の参加も必要である。</p> <p>企画課長：教育委員会関係は別の分科会に参加しているため、いただいた意見は、</p>		

各担当へ周知していく。

医師会：市民意識調査では、「活動拠点の整備」の要望が多いが、各小学校の校庭を昼休みなど時間を決めて活動拠点にしていってらどうか。

企画課長：教育委員会関係部署へ報告しておく。

ボランティア協議会：今後、増々高齢化が進んでいくが、元気な高齢者もたくさんいる。のさか望洋荘について、グランドゴルフ場があるが日本一のコースができないか。

市長：望洋荘の運営について、施設の老朽化のため平成28年3月までの契約であったが、委託業者の要望により8月まで延長し運営していく予定である。その後取り壊しの方向である。グランドゴルフ施設については、存続していく考えはある。また、吉崎浜野外施設について、パークゴルフ場の整備の計画はあるが、整備する際は、その段階で色々と意見をいただきたい。

シニアクラブ連合会：先日のシニアクラブの総会の中で望洋荘について意見があった。市民が容易に利用できる集会・研修・会食場所として整備していただきたい。集会をする場所がない。(地区にあるコミセンは利用が少ない。)また、健康寿命についてもシニアクラブとして取り組んでいる。

企画課長：意見として参考にし、健康寿命の取組みを推進していく。

○高齢者・障害者福祉について

WITH：現在の旧米倉分校にあるマザーズホーム等の体育館のある施設を障害がある子どもたちやサークルが年齢を問わず、自由に活用できたらよいと思う。また、高校生、大学生ボランティア等の連携ができていってらよいと思う。

ボランティア協議会：これからのまちづくりのすべてに言えることであるが、連携については、仕組みをつくっていくことが重要である。各団体の連携づくりは、市ではなく、それらをまとめる団体を中心になって、その各団体のまとめ役を担うことが大切である。

身体障害者福祉会：高齢者や障害者の孤独死の問題が時々マスコミでも取り上げられるが、一番有効な手段は、隣近所の声掛けが大事であるといわれるが、高齢者、障害者が家に閉じこもりになってしまうのがある。

どんどん外に出ていくために、セニアカー・車いすなどの利用者が利用しやすいように道路の端に色をつけるなどの工夫が必要である。八日市場小・敬愛高校前の道路も実施すれば安全に歩行等できるようになる。今後セニアカーも増えてくると思うが、安心して外出できる工夫をしていただきたい。国道には、歩道があるが、高低があるので工夫できればよい。

医師会：閉じこもりの高齢者に対して、若者が高齢者を支えるのではなく、高齢者が高齢者を支えるのが一番期待するところである。高齢者が増える中で、元気な高齢者をどのように活用していくかが課題である。（例えば、北海道の砂川市の取り組みなど）

シニアクラブ連合会：シニアクラブの中では、隣組や井戸端会議の復活を言っているが中々実行できないのが現状である。話題、課題、語りの場は隣組以外にはない。高齢者は互いに手を取り合って協力していくのがよいが、中々実行できない。これは社会環境が大きく影響している。シニアクラブでは、誕生月に世帯へ役員が訪問し、プレゼントを持っていく事業を県の補助事業を使って実施している。

社会福祉協議会：社協の取り組みとして、平成26年度に市から委託を受け安心生活基盤構築事業により高齢者・障害者等の援護が必要な方の要援護者台帳（本人の承諾を得た方のみ）の整備を実施した。今後も引き続き更新等進めていくが、民生委員だけでは、手が足りないため、社会福祉推進員制度を作り4月から運用を始めている。民生委員以外の社会福祉推進員は、8地区社協で72名くらいを委嘱している。バックアップ体制として、市（高齢者支援課、福祉課）が欠かせない。

企画課長：各団体の活動事例を参考に高齢者・障害者に住みやすい環境づくりを目指していきたい。

○子育て支援について

身体障害者福祉会：人口減少について、今後の匝瑳市はようになっていくのかが不安であるとの話をよく聞く。進んだ施策は他でもやっている。（横芝光町【小6までの医療費無料（当時）】、杉並区【子育て券】）

対外的にアピールできる取り組みを実施していくこと必要である。

市長：子育て分野の教育ということでは、児童クラブ等は近隣では進んでいる認識である。

身体障害者福祉会：そういった意味では、市は情報発信が下手ではないか。

内外にアピールする方法をホームページ以外でお願いしたい。

歯科医師会：結婚適齢期の方の意識調査のデータはあるのか。

企画課長：市独自のデータはない。今回実施した市民意識調査の中にも、限定した設問はない。今後、匝瑳市人口ビジョン、まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定するにあたり、若い方を対象にアンケートを実施する予定である。（子育て世代の母親や高校生を対象）

企画課では、婚活支援を年4～5回実施し、その中で参加者に対するアンケートは実施している。

	<p>民生委員児童委員協議会：転入者マイホーム取得奨励金について、利用して転入された方の実績はどれぐらいか。</p> <p>企画課長：今年度から内容を拡充している。転入された方で新築された場合は最大100万円の奨励金を出している。（子育て世帯に対して定住を促進するため、加算がある。）</p> <p>医師会：雇用は他市であっても匝瑳市に在住し、通勤する方に対する補助を出したらどうか。</p> <p>シニアクラブ連合会：銚子市の市民が茨城県の神栖市に転出が多い要因はわかるか。</p> <p>企画課長：神栖市は財政力指数が1.6で茨城県1位であり財政力があるため行政サービスが充実している。また、鹿島の臨海工業地帯であるため、職住近接の理由も考えられる。雇用の場の創出が課題である。</p> <p>ボランティア協議会：子育て支援を考える場合、雇用・人口減少・産業振興のサイクルをつくるのが必要である。経済の循環が大事であり、一つが上手く回りだすとよくなっていくと思う。</p> <p>母子寡婦福祉会：近所の方で結婚しない方が多い。また、結婚しても子どもが生まれない方もいる。不妊治療費が高額と聞いているがどうなのか。</p> <p>企画課長：企画課で婚活支援事業を年4～5回実施しており、広報等で周知を図っている。不妊治療は高額であると聞いているが、詳細はわからない。</p> <p>○医療・医療体制について</p> <p>医師会：市民病院の現状は、一番若い医師が40代であり高齢化が進んでいる。医師派遣について山武市の事例がある。内科医の確保が大事であり、10年目くらいの医師をいかに循環して派遣してもらうかが重要である。千葉大学との医師派遣についても、引き続き連携し要望していく。旭中央病院についても、新しい研修医が集まりにくい状況にある。旭市医師会との合併を進め、連携強化を図っていく。</p> <p>身体障害者福祉会：長野県諏訪市中央病院では、昨年20人の医師を採用した事例がある。（大学病院等への依頼はしていない。）</p> <p>シニアクラブ連合会：今後の市民病院について、医師派遣などの市の考えはどうか。</p> <p>市長：医師会と連携して医師派遣については、継続して要望していく。病院運営については、サポート会の会員を募って昨年から語り合う会を開催し検討している。また、医師の奨学金制度を創設し医師確保に努めている（現在2名の利用）。病院施設の老朽化に伴う改修については、平成31年度からの改修に向けた準備を進めており、規模などを含めた検討をしている。</p> <p>医師会：奨学金以外の方法を考えてみてはどうか。6年間で約3,000万円かか</p>
--	---

	<p>る学費の半額1, 500万円を市で負担するなど。</p> <p>市長：奨学金制度の次の段階ということで、検討していきたい。</p> <p>企画課長：市民意識調査でも医療体制について「医療への不安を感じている」が8割であり、また「市民病院の機能強化を図る」が7割であり、市民の期待が高いことがわかる。そういうことも含め今後検討していきたい。</p> <p>○その他全般について</p> <p>薬剤師会：八日市場駅の電車の本数を増やしてほしい。成東駅くらいの利便性があるとよい。</p> <p>市長：銚子市、旭市と連携し、引き続き要望していく。</p> <p>人権擁護委員協議会：婚活支援を引き続きお願いしたい。</p> <p>薬剤師会：最近、精神科の薬が増えているため、市民病院において、精神の薬に精通した医師をお願いしたい。</p> <p>医師会：地域包括ケアの施策の中に認知症の問題があるが、社会との関わりについて各団体との連携が必要となってくる。</p> <p>社会福祉協議会：ネットワークづくりが重要である。（10年後には5人に1人が認知症）</p> <p>身体障害者福祉会：婚活について、以前2泊3日で実施したイベントがありカップルが成立した実績があった。今後、方法について（泊を含めた）工夫したらどうか。</p> <p>社会福祉協議会：結婚相談員の復活はどうか。</p> <p>企画課長：婚活支援事業については、今後も力を入れて取り組んでいきたい。</p> <p>歯科医師会：口腔検診について、ご協力をお願いしたい。</p> <p>WITH：今回、意見交換した内容・情報を今後個人的にいただきたい。</p> <p>以上</p>
--	---

団体懇談会協議報告書

(敬称略)

名 称	第2分科会 (産業・経済)	会場	ふれあいセンター視聴覚室
協議日時	平成27年8月8日 (土) 14:05 ~ 16:04		
出席者	<p>大木一夫 (匝瑳市農業委員会会長)、鶴野航三 (匝瑳市商工会会長)、大木すみ江 (匝瑳市商工会女性部部長)、伊藤幸一 (匝瑳商業協同組合理事長)、岩井清 (匝瑳市観光協会会長)、江波戸寿穂 (匝瑳市農業振興会副会長)、須合孝治 (ちばみどり農業協同組合八日市場支店長)、角田洋子 (JAちばみどり女性部そうさ支部八日市場地区支部支部長)、石井敏雄 (八日市場ふるさと交流協会会長)、田邊久利 (匝瑳すみどり平工業団地連絡協議会会長)、鈴木弘 ((社) 匝瑳市シルバー人材センター会長)、飯島正義 (千葉県大利根土地改良区理事長)、齊藤勝昭 (千葉県干潟土地改良区理事長)、鎌形直 (北総東部土地改良区理事)、依知川敏男 (千葉県借当川沿岸土地改良区理事長)、旦谷寿雄 (両総土地改良区多古出張所所長)、平快子 (アルカディアの会)</p> <p style="text-align: right;">計17名</p>		
市職員	<p>角田道治副市長、市原繁財政課長 (司会)、伊藤久夫税務課長、作佐部勝美産業振興課長、茅森茂会計課長、佐藤和農業委員会事務局長、堀田晴彦商工観光室長、小林直己主査補 (事務局)</p> <p style="text-align: right;">計8名</p>		
協議概要	<p>1 自己紹介 司会者から団体代表者、市職員の順で自己紹介を行った。</p> <p>2 意見交換</p> <p>○農林水産業の振興について</p> <p>干潟土地改良：高齢化が進んでいく中、これからの農業を守っていくため、国・県だけでなく自治体を含め、担い手への農地利用の集積・集約化を図っていく。国・県が農地を集積していくという問題を取り上げて目の見えるところでやっていくことは、改良区を守っていく上で非常に強いきっかけとなる。</p> <p>多面的機能支払交付金は、農地・水保全管理支払交付金から移行した制度で、平成27年度から法律に基づいた制度となった。改良区関係の仕事として、農地の保全管理・維持管理が挙げられる。この制度を取り入れていかないと生産コストの削減、自然環境の維持管理ができなくなるので、この多面的機能支払交付金に自治体は力を入れてもらい、地域に浸透させて欲しい。その上に立って改良区は全面的にバックアップしたい。</p> <p>大利根土地改良：農協さんも来ているので飼料米の出荷等について伺いたい。また、</p>		

耕作者の高齢化、人口減少による後継者不足、米価の下落、経費の増大など、こうしたことから意欲をなくしている人もいるので、飼料用米の作付けに転換する、中間管理機構による農地の貸し借り、多面的機能交付金による所得の増大など色々施策を打ち出している。ただ、飼料用米の作付けはなかなか伸びてこない。話の中では、出荷に問題があると言われている。作って出荷をするには鹿島まで持ってくるよう言われる。飼料用米を作っている時の用水にも問題がある。水利権が8月で終わる。飼料用米を作っていると8月を過ぎ用水がなくなる。

中間管理機構による農地の貸し借りは、相対でかなり行われているが、それは効率のよい場所、土地改良をやっていない効率の悪い場所は耕作放棄地となっている。多面的機能交付金は、農家の人たちがとれだけ事務的にできるか、一部農業事務所の指導では、土地改良区がやってもよいと言っているが、そういうわけにもいかない。吉田西部は296号線沿いを中心に多面的機能交付金で行っている。事務的、場所的に問題があつて農家まで踏ん切りがつかない。こうしたことから耕作放棄地がかなり増えている。農業関係の会議に出て、解消すると言ってもなかなか進まない。中間管理機構の中でも解消までの事業はみていない。端的に言えば土地改良をすることが一番良いが、米価が安いのでなかなか土地改良はできない。土地改良に携わる私どもも、整然と管理された農地、美しい自然環境の確保を望んでいるがなかなかそこまでいくことができない。施設の改修に大金がかかる。一部国営事業等ではじめているがなかなか難しい。難しいというだけで終わってしまうが、みなさんの知恵を借りながら自然を守っていききたい。

ちばみどり：今年から農協のほうでも飼料用米の取扱いをさせていただくことになった。集荷については従来どおり農協の米の検査場で集荷をさせていただく方向で進めようと考えている。鹿島のほうに出荷をという話があつたが、飼料用米を取扱う業者によって内容が異なると思われる。農協で取扱う飼料用米は従来どおりの検査場で検査を受けるという形を取らせていただくことで進めている。

飼料用米の取扱いは、今年全農の取扱いの中で昨年、米価の下落があつたので、できるだけ農家所得の安定した金額を維持するため、一つの方策として、農協でも取扱いを進めていこうではないかと、本年度から取扱いをさせていただくことになった。まだまだ、空中散布や用水等の問題もありますが、今後の課題として進めていきたい。

ふるさと交流協会：土地改良区の賦課金の滞納が多いと聞いているが。

大利根土地改良：未納はあるが、米価の下落前とまだそんなに変わっていない。これから未納が増えてくるかなと思う。

ふるさと交流協会：自分も農家をしているが、賦課金の支払いが大変。最近では、経営が行き詰まり払いたくても払えない人が増えてきている。10年くらい払わない人に対して通知を出すだけでなく、法的措置を取らないといけなのではないか。真面目な人は賦課金を払い、耕作放棄した人は払わないという不公平が出てくる。

大利根土地改良：顧問弁護士と相談しながら差し押さえをしている。

ふるさと交流協会：30年くらい賦課金を払わない人もいる。

大利根土地改良：弁護士と相談し県の許可を取って差し押さえをする。徴収率は約97.2%。この数値は公表している。

北総東部土地改良：北総東部は徴収率97.8%に近い。賦課金の滞納問題は、北総東部では、3年間滞納した場合、賦課金徴収係が先頭になり各工区長に相談し払える能力のある人は千葉県知事の認可をもらい、賦課金の令状を出して、それでも払わない場合は、督促状を出す、それでも払わない場合はもう一度督促状を出す、それでも払わない場合は係が直接行って、預貯金・不動産の差し押さえをしている。

ふるさと交流協会：農地の集約化は、啓蒙活動をしていかないと進まないのではないか。土地の貸し借りについて、市に相談はあるのか。

産業振興課長：貸してもいいですよという人は、なかなか来ないのが実状。

○特産品の開発、地産地消の推進など

J Aちばみどり女性部：ちばみどりさんに大きいオープンを買っていただいた。米粉を使ってパンを作ろうと頑張っているが、商品にするのは難しい。

農業振興会：そうさの米研究会の会長をしているが、匠瑤の舞というブランド米を作り、大々的に売り出している。春には150人から200人の消費者を呼び田植えをやり、9月19日、20日は消費者を呼んで稲刈りを行う。

大利根土地改良：そのブランド米は、匠瑤市ならどこの米でもよいのか。

農業振興会：そうさの米研究会に入っていればよい。野栄地区、八日市場地区で30名ぐらいの人員で行っている。9年前に会を立ち上げた。

大利根土地改良：例えば、吉田の米と海岸地帯の米は。

農業振興会：一緒のブランド米である。肥やし、薬などすべて統一した基準で行っている。

アルカディアの会：肥料とかその辺だけで味は変わるのか。土地改良とか土壌改良したのか。

農業振興会：土壌改良も食味計で測ると、足りないものがわかるので、土壌改良剤

	<p>を入れたりしている。差別化を図っており、一般米とプレミアム米は1,000円の差があり、食味値が上がらない生産者は、一層努力している。出荷先は京都の方から色々ある。匠瑛市の生産者が全国規模のコンクールに入賞した。</p> <p>借当川沿岸土地改良：数量は。</p> <p>農業振興会：3,200から3,300俵くらい。</p> <p>アルカディアの会：ふれあいパークでよく売れている品物などのデータはないのか。</p> <p>ふるさと交流協会：今持ち合わせてはないが、一番よく売れているのは野菜である。他には植木や加工品のおにぎりなどが売れている。野菜を目当てに来ているお客さんが多いと思っている。お客さんの大半は道すがりに寄ってファンになる方、内山・大寺、旧山田地区に常連が多い。</p> <p>アルカディアの会：多古の道の駅などができて競争が激化しているが、よそと差を出せるくらいの鮮度があるか。</p> <p>ふるさと交流協会：前日に採って翌朝持ってくる。トウモロコシに至ってはその日の朝3時か4時に起きて採って持ってきている。新鮮さにかけてはかなり一生懸命やっている。経営的に厳しくなると思うのは、10月に旭市に道の駅がオープン、オライはすぬまなど、この周辺に直売所が多く、激戦が予想される。品物的に新鮮な野菜で安全であるということで、あとは珍しいものを入れていく。</p> <p>アルカディアの会：ふれあいパークができてうれしいなと思ったのは、普段スーパーに並ばないような商品が出てきたときに新鮮でよかったこと。ここでの特産品で売れるものがあればプッシュしていけばよいのではないか。いわしの胡麻づけやらっか味噌など、この辺のおじいちゃん・おばあちゃんしか作らないようなものをプッシュしていけばいいのかなと思う。野菜の新鮮さはどこでもやっていると思うので。</p> <p>ふるさと交流協会：新しい加工品は部会などがあるたびに話し合いをしているが、意見をまとめるのに苦労している。新しい商品開発のため、若い組合員を増やす活動をしている。</p> <p>農業委員会：匠瑛市は植木の産地であるが、ふれあいパークで植木がお荷物と言われ、ショックを受けている。</p> <p>ふれあい交流協会：私は聞いたことはないが、植木が苦戦していることは事実。夏場は特に植木は動かない。周辺の道の駅を見ても一番植木があるのは東金だが、苦戦している。近隣の道の駅を見てもこれほど植木を置いているところはないので、植木のまちのメンツにかけても植木を売っていきたくと</p>
--	---

	<p>いう気持ちは忘れたことはない。</p> <p>農業委員会：需要と供給というバランスの問題とは思うが。</p> <p>アルカディアの会：東京駅の植木が匝瑳市のものとパンフレットで見た。</p> <p>ふるさと交流協会：鶴岡八幡宮の植木も匝瑳市のものと聞いたことがある。</p> <p>アルカディアの会：東京駅の植木が匝瑳市産というのは良いPRアイテムと思う。</p> <p>パンフレットがあるが、外部発信をしていないのではないかと。内部にしか発信していないような気がする。匝瑳市が読めないというだけでなく、良いものを、こんな特産品があるということを外部に発信していくべき。</p> <p>インターネットは1ページ目が大事で、例えば匝瑳市を検索したときに、1ページ目に東京駅の植木は匝瑳市産というのを載せるなど、インターネットのレイアウトなど工夫が必要ではないか。</p> <p>内山のアルカディアの会をみなさん知らないかと思います。ポスターを見せながら、ここに田植えをしているのは都会の人しかいなくて年間2,000人くらい参加してくれる。田んぼが足りない状況である。農業体験は良いアイテムと思う。</p> <p>移住したいという人もいる。こういう人たちは、古民家を希望しているが、空き家バンクには都会のたたくまいしかなく、旭や横芝光町に行っている。こういう人たちの大半は子連れなので、受入体制を整えれば、人口減少の歯止めにも繋がるのではないかと。</p> <p>○商工業の振興について</p> <p>商工会：日本全国で元気のある商店街が5%と言われている。大型店やロードサイド店は企画をしても乗って来てくれない。役員もやらない。プレミアム商品券などをやると、まだデータは出ていないが6割以上大型店に流れるのではないかと。ここに商業協同組合の会長さんとサービス券の会長さんがいますけれどもそれなりに非常に努力をしているが、加盟店も減ってきているし、売り上げも減ってきている。今回のプレミアム商品券を初めてやりますよと言ったとき、商品券を買っても商品を買う場所がないとお客さんに言われて参加店を増やし大型店でも使えるようにしたところ完売した。特に商業関係は苦勞している。</p> <p>商工会女性部：農業が盛んでないと商店に人が流れてこないのではないかと。大型店に行かないで、お金を使いたいという魅力的な商店街にしなければと思う。意見を出して欲しい。</p> <p>アルカディアの会：昔ながらのどうしても必要な、本当にいいものを取扱う専門店街というのはどうか。JRとタイアップしている散歩の評判を教えて欲しい。</p>
--	--

産業振興課：3回実施した。1度目は駅から南へ行き植木の関係の畑等を歩いて帰ってきたコースで、900人くらい参加した。数としては相当多いほうである。駅からハイキングというもので、JRが主催をして千葉県内のありとあらゆるところで年間を通じて行っている。パンフレットも出ており市も後援というかたちで周知している。2度目は大浦ごぼうを見に行こうという企画を行った。600人の参加があった。3度目が、昨年藤の里を訪ねてという企画を行い、500人の参加があった。駅からハイキングというものなので、本当にハイキングをやりに来る方と所々寄っておもてなしをしてくれるということで、非常に喜んでくれる方の声を聞いている。

今年も12月の第1土曜日に大浦地区でやる予定である。ほとんどが都会から来る人なので少しずつ浸透してきているのかなと市のほうは見ている。

商工会女性部：でも商店街はあまり関係ないよね。

ふるさと交流協会：商店街の関係だと、どこでも同じようなものではなくカインズでも敵わないというような物を作っていく必要があるのではないかな。

アルカディアの会：集中的に物が買える場所、一か所で買い物が済むような、例えば鎌も買える、まんじゅうも買えるような匝瑳の特産品場のようなところがあつたらいいなと思う。

大利根土地改良：商店街のお客の問題にしても、農業にしても、副市長から説明があつたように、人口が減ってはいはだめだと思う。人口を増やすこと。人口を増やすためには住宅地を作るとか働くところを作るなどを考えていく必要があるのではないかな。

観光協会：商店に足を向かせるため、ポイントという時代なので、ポイントを差し上げてお客さんに帰ってきていただきたい。提案を頂いたが中々難しいところがある。

商業協同組合：後継者がいない。親が継がせたくない。子どもが大学に進学すると帰ってこない。人口減少に繋がっている。若い人が残ってくれるような工業団地を作ってもらいたい。共通商品券の販売枚数も減っている。お客さんから共通商品券をもらっても買うところがないとよく耳にするが、加盟店は300店近くある。それでも買うところがないと言われるのは魅力がないのかなと思うが、一番の悩み。共通商品券を頂いたら地元の商店を使って頂きたい。

シルバー人材：若い人達の働く場所の確保ができれば人口減少に歯止めがかかると思う。人口が増えなければ商店の発展も難しいのではないかな。高齢者でも働く人が結構いるので、働く場の確保に努めたい。

みどり平工業団地：先月あった銚子、旭市、匝瑳市合同の雇用対策推進協議会で、工業団地ないしは工業に関わる会の方から募集はしているが、自分の市の若者は、自分の市に就職しないという話があった。自分の会社で言えば来年度3名の高卒者の採用を予定しており、人員は必要としている。

高齢者の雇用については、自分の工場では2年くらい前から最大で1日6～8人が毎日シルバー人材センターから来ていただいている。

なぜ若者が地元就職しないのか。職安と協力してデータを分析している。匝瑳市に限って言えば、匝瑳高校は進学率が高く大学に進学し、地元へ帰ってこない。八日市場敬愛についても進学率が高くなっている。東総工業は工業高校で技術も高く、募集をかけている。30名募集をかけると27名は神栖市の工業団地へ行ってしまふ。残りの3名が地元就職するようになっていく。同条件でも大企業に行ってしまう。雇用そのものがないわけではない。

みどり平工業団地には、27社あるが何を作っているか知られていない。できれば小学生、中学生の時から職業体験をさせ興味を持たせたいと考えている。工業団地としても地元の人を採用したいと思っている。

子育て世代に対する社会サービスの充実（保育所の充実、医療体制など）によって、若者が匝瑳市に魅力を感じれば人口減少に歯止めがかかるのではないかと考えている。

商工の部分では、連絡協議会でも大型物件は入札対応となるが、そうでなければ地元の業者を優先している。弊社としても物品は以前に比べれば地元の商工会会員から購入するなど切り替えている。匝瑳市には商工業に対してどういった取扱店があるのかなど情報の共有を図りたい。

コストの面で言うと、企業は必ずしも最安値を選んでいるわけではない。工業製品を作ることに限っては、いいものを安く時間通りに届けるということが非常に大切と考えている。物が同じでも対応力が違ってくると変わりがあるのではないかと考えている。

補助金などの書類申請のアドバイスを商工会ないしは産業振興課からいただきたい。

○観光振興について

観光協会：匝瑳市の観光には何があるかという点、飯高壇林、植木その次は祇園くらいしかない。祇園をもう少し盛大にして、一般の観光客が気持ちよく見られるスペースを作るなど整備していかないといけない。トイレをもっと分かりやすく綺麗にしていく。飯高壇林をもっと観光客を呼べるようにしてもらいたい。里山もあるので映画のロケーションを呼べないものかと行

	<p>政にお願いしたい。</p> <p>アルカディアの会：アンケートの間18は自由意見で集計中とあるが、何か目立ったものはあるか。</p> <p>事務局：現在集計中のため、この場では提供できない。</p> <p>アルカディアの会：問19はいいと思う。施設整備・受入体制を推進するという意味で、農作業したあとにシャワーを浴びるところがないので、のさか望洋荘か多古の嵐の湯まで行っている。農業振興会さんはどうしているのか。</p> <p>農業振興会：のさかふれあい公園で対応している。</p> <p>アルカディアの会：アンケートに農林水産業や商工業など他分野と連携していくとあるがこれまでしていないと思う、例えばふれあいパークでの売れ筋の野菜はこんな物があるので作ったらどうかという提案があっても良いと思う。特産品の開発も発信したらどうかと思う。農林業と言いながら林業組合が参加していない。林業も重要ではないか。</p> <p>産業振興課：産業振興課で林業組合の事務局をしている。林業を業としている人は匝瑳市ではないという認識でいる。</p> <p>商工会女性部：水産業はどうなっているのか。</p> <p>司会者：今回のこの会には漁業組合の方は呼んでいない。執行部の反省点である。林業組合も同様である。</p> <p>農業振興会：ラジオなどでふれあいパークや八日市場の祭りの情報を流したらどうか。マスコミを使ったらどうか。</p> <p>ふるさと交流協会：ふれあいパークは千葉テレビでコマーシャルを流している。</p> <p>アルカディアの会：トイレや海岸については、長い間言われている。こんな良いところが匝瑳市にはあるとラジオで呼びかけても受入施設の整備の展望はあるのか。</p> <p>農業振興会：市はお客が寄ってくればやるのではないか。</p> <p>観光協会：吉崎と堀川には立派なトイレがあり、利用されている。</p> <p>干潟土地改良：サーフィンが流行っているが観光に有効利用はできないのか。</p> <p>観光協会：吉崎の波は良いと思うが、現状は困難な状況である。</p> <p>○地域特性を生かした総合的な取組みについて</p> <p>干潟土地改良：地方創生がうたわれているが、匝瑳市としてはどう考えているのか。</p> <p>副市長：人口減少の対応として、まち・ひと・しごと創生本部会議を設置している。外部組織として学識経験者、金融機関など色々なジャンルの方に入っただけ、今後人口がどうなっていくのかという推計をするということと、それを留めるにはどうしたらよいのかという検討を始めたところである。今年度いっぱいはいかかるのではないかと考えている。</p>
--	--

	<p>干潟土地改良：人口減が一番の問題点である。農業を潤していけば自然と商工の活性化にも繋がるのではないかと。</p> <p>アルカディアの会：近郊農業や貸農園などは外部発信しやすいし、ニーズがあると思うので、内部だけではなく外部に発信したらどうか。</p> <p>産業振興課：第1市民農園はふれあいパークの脇にある。今年4月に第2市民農園を旧野栄町役場前に77区画開園した。農業振興会のほうで東京等に毎月一回野菜を売りに行っているのでもそういった場所や、東京都で行われているマロニエ祭りといったところでパンフレットを配布し、利用者を集めている。</p> <p>アルカディアの会：農具とかも貸してくれるのか。</p> <p>産業振興課：農具の貸し出しを行っている。</p> <p>アルカディアの会：せっかく八日市場という名前があったので、八日に市を行うなどしたらどうか。</p> <p>以上</p>
--	---

団体懇談会協議報告書

(敬称略)

名 称	第3分科会（生活環境・都市建設）	会場	ふれあいセンター談話室
協議日時	平成27年8月8日（土） 14:00 ～ 15:50		
出席者	椎名嘉寛（匝瑳市区長会会長）、宇賀神脩（匝瑳市防犯協会会長）、木原克男（匝瑳交通安全協会理事長）、並木富子（匝瑳交通安全協会婦人部部長）、森隆一（匝瑳地区安全運転管理者協議会理事）、稗田正治（匝瑳市不法投棄監視員連絡会議会長）、石田進康（匝瑳市消防団団長）、小原久幸（（社）千葉県建設業協会八日市場支部支部長） <div style="text-align: right;">計8名</div>		
市職員	藤崎俊一議会事務局長（司会）、加瀬幸治環境生活課長、佐藤雅美都市整備課長、椎名満建設課長、鈴木茂監査委員事務局長、岩澤薫野栄総合支所長、佐久間三喜男総務課主幹、伊藤勇氣主任主事（事務局） <div style="text-align: right;">計8名</div>		
協議概要	1 自己紹介 団体代表者、市職員の順で自己紹介を行った。 2 意見交換 ○生活環境等の評価について 区長会：市民意識調査から見ると、匝瑳市はある程度住みよいと評価されているようであり、私個人も同様である。住みよい理由としては、災害が他市町村と比して少ない、防犯体制が整備されており犯罪が少ない、自然環境が豊かであることが挙げられる。一方で市民病院をはじめとする医療環境の整備、人口減少や若い世代の定住対策、市の基幹産業である農業の後継者不足など課題も多い。 防犯協会：どちらかといえば、あまり住みよいとは思わない。例えば、私の自宅の前では雨が降ると道路が冠水し、出入りが出来なくなる。また、空き家が増えており、防犯上の問題も懸念されるため、対策を検討していただきたい。 交通安全協会：基本的に防犯協会と同じ意見である。高齢者の一人住まいや空き家の増加等、防犯上懸念される事項は多い。 交通安全協会婦人部：同様の意見である。 安全運転管理者協議会：市内で日常の買い物をする際に、多くの市民はカインズホームやカスミ等の大型店舗で済ませており、商店街は壊滅状態である。大型店舗での買い物の際は、駐車場に車を停めてから比較的長い距離を歩くことが多い。例えば、商店街を一方通行にして店前に車を止められるようにすれば、店が目と鼻の先なので高齢者に優しく、商店街の活性		

	<p>化にもつながるのではないか。</p> <p>消防団：雨が降ると海岸線沿いの家屋に床下浸水が発生するので、早急に対策をしていただきたい。</p> <p>不法投棄監視員連絡会議：以前は家電製品等の不法投棄が目立ったが、最近はなくなりつつある。また、震災以降津波への関心が高くなっているため、広報等を活用しつつ津波をはじめとした防災に関する情報を積極的に提供する必要がある。</p> <p>建設業協会：道路については舗装・排水整備は進んでいるように思うが、冠水が発生しているところもある。</p> <p>総務課：津波に対する情報提供として、昨年防災マップを作成し、全世帯へ配布した。それに対する説明については、広報やホームページを活用して行っているが、個別に説明をすることも可能である。海岸の整備状況としては、のさか望洋荘南側の護岸工事が終了しており、今後はそこから西側へ順次整備を行っていく予定である。また、説明についてもしっかりと行っていきたい。</p> <p>建設課長：道路の整備については、県や国と市民の方々と連絡を密にして取り組みたい。また、道路に関してお気づきの点があればご連絡いただきたい。</p> <p>防犯協会：定住促進・空き家対策のため、空き家を市で買い取り、リフォームを行った上で市営住宅として貸し出し、一定期間以上住めば居住者に払い下げ、もしくは譲渡する仕組みを作ってはどうか。検討していただきたい。</p> <p>○快適で安全なまちづくりのための整備について(主にハード整備)</p> <p>交通安全協会：市役所裏の公園や第二庭球場を整備しているが、本当に必要なのか疑問を感じている。</p> <p>建設課長：テニスコートの建設について、第一中学校の隣に市営テニスコートがあるが、実質は第一中学校のテニス部専用の状態になっている。また、吉崎の野外施設のテニスコートは震災の影響で使用できない状況になっている。</p> <p>区長会：市役所裏の公園の活用について、一案として、第一中学校にはサッカー部がないため、公園にサッカー練習が出来る環境を整備するのはどうか。公園の多目的広場の活用予定があれば教えていただきたい。</p> <p>都市整備課長：多目的広場については、芝生広場のイメージで考えている。また、イベント開催時の活用、災害時に仮設住宅を建設することも考えられる。誰でも、いつでも、自由に使用できるところが大原則なため、それらとの調整を図ったうえで検討していきたい。</p> <p>○快適で安全なまちづくりのための取組について(主にソフト整備)</p>
--	---

	<p>区長会：大きなゴミの不法投棄は減っているようだが、依然として耕作放棄地等に家庭ゴミの投げ捨てが目立つ。市では、これについて罰則がある条例を設けているか。</p> <p>環境生活課長：不法投棄についての条例はあるが、ポイ捨てレベルの条例はない。今後は、ゴミの投棄を防止する看板の設置をさらに進める等、対策を講じていきたい。</p> <p>区長会：監視だけでは防ぎようがない状況ではないのか。</p> <p>不法投棄監視員連絡会議：宛名がついている不法投棄物を見つけた際警察へ連絡したところ、自分の拾得物扱いとなってしまう、困った経験がある。</p> <p>環境生活課長：そういった場合は環境生活課へご連絡いただきたい。</p> <p>不法投棄監視員連絡会議：地域の店が無くなり、高齢者の買い物難民が増えているように思う。また、循環バスの運行が効果的なのか再検討する必要があると感じる。</p> <p>防犯協会：大型店舗は利益が出なければ撤退してしまう。大型店舗の影響もあり地域の店が無くなっていると思われるので、撤退した時に受ける影響はかなり大きいと思う。</p> <p>交通安全協会：子どもたちの「見守り隊」活動については、とても良いと思う。</p> <p>安全運転管理者協議会：飲酒運転の検挙数は減っているが、未だに見受けられる。運転代行を利用することが多いが、21時くらいまで循環バスが走っていれば便利だと思う。</p> <p>消防団：通学路の歩道整備についても重点的に取り組む必要がある。</p> <p>建設課長：年に1回、道路管理者(市や県)、学校関係者(教員、PTA)、区長等と合同で、通学路の危険個所の合同点検を実施している。今後も地域の意見を取り入れながら、対策を講じていきたい。</p> <p>建設業協会：ハード部分の話になってしまうが、八日市場駅周辺に活気がない。また、駅の南側を整備したはいいが、活用されていない。再開発の予定はないのか。</p> <p>都市整備課長：ごもつともである。従来は行政主導の計画が中心であったが、今後は民間の力を活用した取組も必要である。</p> <p>区長会：同感である。駅の南側を、民間と協力しながら再開発するべきと考える。</p> <p>防犯協会：八日市場駅に歩道橋やエレベーターを設置したが、活用されているとは思えない。JRと連携しながら、八日市場駅周辺の活性化に取り組むべきである。</p> <p>安全運転管理者協議会：駅の南側の開発が、今後の匝瑳市発展の鍵になると私も考える。</p>
--	---

	<p>都市整備課長：人口減少の影響もあり、八日市場駅の利用者が減っているため、JRから金銭的な援助は期待できない。駅南側の開発については、市全体の施策をふまえたうえで検討していきたい。</p> <p>○地域特性を生かした総合的な取組について</p> <p>区長会：地域に隠れた潜在能力はあるが、生かしきれていない状況である。これをさらに生かすためには、行政と市民の連携が不可欠である。今以上に市民への情報提供を行ったり、地域ごとに市民との意見交換会を開催すれば、お互いの理解や連帯感が深まると思う。</p> <p>○その他のまちづくりへの提案について</p> <p>区長会：市民病院について、医師数・患者数ともに減少しており、経営は厳しい状況にある。また、今後この地域に医師が来ることも期待できない。地域の医療を守るため、旭中央病院と連携した取組が必要ではないか。</p> <p>防犯協会：海岸にサーファーが多く訪れているが、水道の乱用とゴミの放置が目立つ。吉崎野外活動施設も閑散としており、非常に残念である。海岸の砂浜にオートレース場をつくる等、斬新で特徴的な発想が必要ではないか。</p> <p>建設業協会：人口減少は大きな問題である。みどり平工業団地を活用した雇用対策や、八日市場駅南側の開発等を行っていかないと、人口は減る一方である。</p> <p>以上</p>
--	---

団体懇談会協議報告書

(敬称略)

名 称	第4分科会 (教育・交流)	会場	ふれあいセンター第3会議室
協議日時	平成27年8月8日 (土) 14:07 ~ 15:48		
出席者	八木佐久司 (匝瑳市社会教育委員会議議長)、加瀬靖之 (匝瑳市文化財審議会会長)、 依知川雅一 (匝瑳市八日市場文化会事務局長)、野仲哲二 (匝瑳市野栄文化会副会長)、 熊切達雄 (史跡飯高檀林跡を守る会会長)、熱田信之 (匝瑳市PTA連絡協議会会長)、 大木睦子 (そうさ市子ども会育成連絡協議会会長)、石橋春雄 (匝瑳市立八日市場図書館協議会委員長)、 塚本隆夫 (匝瑳市体育協会副会長)、布施隆 (匝瑳市スポーツ推進委員連絡協議会会長)、 江波戸正雄 (八日市場ロータリークラブ副会長)、林眞示 (八日市場ライオンズクラブ会長)、 松田晃宜 ((一社) 八日市場青年会議所理事長)		
	計13名		
市職員	池田竹四教育長、宇井和夫秘書課長 (司会)、小関和雄学校教育課長、水口孝生涯学習課長、 日下部真一公民館長、藤崎宏道図書館長、椿進学校給食センター所長、土屋沙織主任主事 (事務局)		
	計8名		
協議概要	1 自己紹介 司会者から市職員、団体代表者の順で自己紹介を行った。 2 意見交換 ○学校教育について ライオンズクラブ: 子どもの数が非常に少なくなっており、体育の授業やクラブ活動をする際にチームを組めないことがあるようだ。大勢で競争することでスポーツの効果が出ると思うが、新入生が数名という学校もあると聞くので、将来の統廃合の構想があれば伺いたい。 学校教育課長: 匝瑳市の教育問題等を話し合う懇談会で学校の統合に関する基本的な考え方が示されている。複式学級が2つ以上ある場合は統合を検討することになっている。中学校への進学を考え、統合する際も中学校区は跨がないという方針である。 八日市場文化会: 吉田地区の役員を務めており、学校からアンケートを依頼されたり、懇談会に参加したりしているが、一般の人のアンケート回答率が悪い。アンケートの結果を教育委員会ではどのように活用しているか。 学校教育課長: 学校では、家庭や地域との連携を重要視している。アンケートは各校が教育に対する地域の要望を把握するために実施しているもので、各校で取りまとめた施設設備の充実や教育内容の充実等の要望は、教育委員会で対応を検討し、予算の範囲内で事業を実施している。		

PTA 連絡協議会：複式学級が2つ以上になれば統合を検討するということだが、対象となる学校はあるか。

学校教育課長：匝瑳小学校が該当する。複式学級の正規の基準では、複式学級が2つになるところだが、教員の加配対応、補助教員の雇用により、形式上、現在も各学年に1名ずつ担任がいる。

ライオンズクラブ：匝瑳小学校は、今後統合するのか。

学校教育課長：現在検討中である。

○生涯学習、生涯スポーツの推進について

ライオンズクラブ：個人的に硬式テニスをやっている。練習場所として利用するのは横芝光町のふれあい坂田池公園と、しおさい光公園のテニス場である。理由は、人工芝で良い施設だからである。匝瑳市内には人工芝のテニス場がない。重点施策である「第2市営庭球場」は、どのようなものか伺いたい。

生涯学習課長：場所は、学校給食センターの隣。最大で6面を計画している。コートは、砂入り人工芝。夜間照明も含め、整備内容を検討している。現在、地質調査をしており、調査結果をもとに今後工事を進める予定である。

ロータリークラブ：市のサッカー協会に所属している。協会には社会人が多く所属しており、夜間にフットサルのようなミニゲームを行いたいという話が協会の総会で出た。施設利用の申請をしたところ、フットサルはボールを蹴る競技なので、体育館では行えないと利用を拒否されていると聞いた。施設貸出しの考え方を伺いたい。

生涯学習課長：フットサルに関して、八日市場ドームでは当初から全面禁止、のさかアリーナでは子ども達に限り一部許可している。生涯学習センターの多目的ホールでは許可しているが、コートが基準より狭い。体育館ではボールを蹴って壁が壊れてしまうなど、構造上の問題に対応できていないことから、利用を制限している。

ロータリークラブ：サッカー場に夜間照明をつけるとなるとランニングコストも掛かることなので、代わりに、体育館をもっと利用しやすくしてもらいたい。

スポーツ推進委員：県の事業で軽スポーツの指導を受けてきても、市の予算の関係で教材を調達できず、学んだことを活かさない。また、現在市が保有する教材も活用されていないと感じている。

のさか文化会：生涯学習センターの多目的ホールは、フットサルやダンスサークルの利用がある。冷暖房施設がなく、高齢の利用者が体調不良を訴える状況である。何か対策してもらえないか。

生涯学習課長：新たな空調設備の設置は難しいと思われる。

図書館協議会：平成21年に「のさかスポーツクラブ」を設立した。設立の際のアンケートでは、スポーツをどれくらいしていますか、という問いに対し、ほとんど行わないと答えた人が全体の52%だった。その理由としては、時間がないが37%、きっかけがないが23%だった。のさかスポーツクラブは、設立から5年目を迎え、会員も260名になった。スポーツを広めるきっかけとして、八日市場地区にもスポーツクラブ設立を目指してもらいたい。

ライオンズクラブ：個人的にドームで卓球、椿海小学校体育館でバドミントンをやっている。椿海小学校体育館は他の団体にも利用されているようだが、市全体の体育館の開放状況を伺いたい。

生涯学習課長：市内全小・中学校で体育館の開放を行っている。

ライオンズクラブ：体育館開放の実績を広報に掲載するなど、PRをしてはどうか。開放状況をお知らせすることで、現在体育館を利用していない団体の利用も増えるかもしれない。

体育協会：屋外競技の団体が雨天時用として年間を通して体育館を終日予約している。改修・改築で新しくなった体育館は利用価値も高い。雨天時のみの利用のために、他の団体が利用できなくなっているの、何とかしてもらいたい。

生涯学習課長：利用者同士の話し合いで解決をしてもらいたい。まずは、現状確認を行う。

○青少年健全育成について

ロータリークラブ：八日市場第二中学校の通学路沿いに住んでいる。朝、生徒のあいさつの声を聞くと気持ちが良い。各学校で生徒にあいさつの励行を推進してもらいたい。

教育長：生徒指導の一環として全校で「あいさつ運動」を推進している。

子ども会連絡協議会：子ども達の登下校時、防犯ボランティアが生徒に付き添い、和やかな下校風景となっている。防犯ボランティアの継続を希望する。

子ども会の活動も含め、子ども達が学校以外で活動する場に参加している。子ども達が学校でしか体験できないこと、家庭でしか体験できないこと、学校や家庭以外でしか体験できないことがあると思う。子ども達には様々な体験をさせたいと考えている。

図書館協議会：広報そうさ「はつらつ」のコーナーは匝瑳市の将来を担う青年を取り上げる企画であるが、今後も継続してほしい。

秘書課長：地域で活躍する方を今後も紹介していきたいと思っている。今年度から「はつらつ」に加え「私のイッピン」というコーナーも新設した。

○地域文化の振興について

文化財審議会：文化財は市内に数多くあると聞かすが、それらを「活用」することが重要であると考えている。文化財について「保護」と「活用」と分けるとすれば、活用をもっと行うべきではないか。文化財について知ることは、本市の歴史を知ることにつながる。例えば、樺海地区の発掘作業により出土したものを子ども達に見せるのはどうか。実物を見せることで匝瑳市の愛着が生まれるのではないか。見せるには先生方に文化財のことを知ってもらう必要があるので、先生方に文化財についての研修の機会を作ってもらってはどうか。文化財を知ってもらう、見てもらう努力をすべきである。

学校教育課長：小学校の副読本「わたしたちの匝瑳」が改訂時期を迎える。文化財の内容を盛り込むか検討する。また、該当分野の担当教員に呼びかけを行う。

檀林跡を守る会：夏休みに入って間もなく、日蓮宗の僧侶が千葉県東部の子ども達を募って「寺子屋」という宿泊体験を行った。日中飯高寺の拭き掃除や境内の掃き掃除を行った。文化財の保護も重要なので、むやみに開放するのはいかがかと思うが、これも文化財の活用の例だと思う。

文化財審議会：校外学習を行う際に、引率者が安心して出掛けられるよう市バスの貸出しをしてほしい。

○コミュニティ育成・交流活動について

ライオンズクラブ：八日市場ライオンズクラブでは若者の海外派遣を行っている。今年も高校生をオーストリアへ派遣した。広報で希望者を募集して、毎年1名を海外へ派遣する活動を継続している。

青年会議所：交流場所として公民館等を利用しているが、閉館時間が9時と早い。青年会議所のメンバーは、仕事の都合で早く集まれないという事情もあり、閉館時間の延長をしてもらいたい。

また、「(仮称) 合併記念公園」の完成とあったが、交流の場として利用できるものなのか、施設の概要を知りたい。

秘書課長：市役所の北側に整備している公園である。担当課は、都市整備課となるが多目的な利用とともに防災の機能も備えた公園とする計画である。

○地域特性を生かした総合的な取組み・まちづくりへの提案について

文化財審議会：若者はインターネットを良く見ている。イベント情報や植木等、市の産業の状況をネット配信してはどうか。

秘書課長：市のホームページを日々更新している。花の開花情報等は、季節に合わせて、状況がわかりやすいよう工夫している。また、Twitterでリアルタイムの情報配信もできるようにしている。閲覧回数は、1日に1,000件程度

	<p>あり、有効な広報手段と考えている。</p> <p>文化財審議会：市のホームページだけではなく、カテゴリー別に情報を集約して掲載しているページに本市の情報を載せるようにしてもらいたい。</p> <p>秘書課長：千葉県ホームページに祇園祭等の市の観光・イベント情報を提供し、掲載されている。</p> <p>体育協会：千葉日報を読んでいるが、匝瑳市の情報の掲載回数が他市に比べ少ない。</p> <p>秘書課長：毎週報道機関各社に市の情報を提供しているが、取り上げられる回数が少ない。</p> <p>青年会議所：地名が難しいことを逆手にとったPRは良いと思う。八日市場青年会議所としても「難ドック」を開発した。難読地名同士ということで宍粟市との交流も行われていたが、宍粟市との交流の現状はどうか。</p> <p>秘書課長：遠隔地の利点を生かし、昨年宍粟市と災害応援協定を調印した。</p> <p>青年会議所：匝瑳市は地盤が良く、災害にも強いまちだと聞いた。気候の良いまちでもあり、それらをPRして企業の誘致をしてはどうか。</p> <p>以上</p>
--	--